

三原やっさ祭り

ゴミへらし隊エコレンジャー委員会

<http://ecoranger.jimdo.com/>

2013 年活動報告

～活動 10 年の振り返りとともに～

活動10年の節目を迎えられて

三原市長 天満 祥典

ゴミへらし隊エコレンジャー委員会におかれましては、平成16年の委員会発足以来、10年の長きにわたり、やっさ祭りを通じてゴミ対策活動を続けてこられましたことに対し、心から敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。

皆様には、委員会発足当時のPR活動や分別ナビゲートの実施から、毎年のように活動内容を検討され、現在ではリユース食器の利用やマイはし販売、子ども達に人気のエコレンジャーショーの実施など、先進的な取り組みを実施いただき、ボランティア参加者のみならず、祭りの来場者へも着実に環境への意識が浸透してきていると感じているところでございます。

ご存知のように、本市では平成23年10月に「きれいな三原まちづくり条例」を施行し、環境の美化と保護に取り組んでおり、やっさ祭りにおいては、啓発うちわの作成・配布のほか、微力ながら、有志を募りリユースカップ回収ボランティアに参加させていただいております。

今後も条例の啓発に取り組むとともに、ゴミへらし隊エコレンジャーの活動が5年後、10年後、更に広がるよう協力してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

ゴミへらし隊エコレンジャーの益々のご活躍を祈念いたします。



活動10年に寄せて

三原市公衆衛生推進協議会長 陶 範昭

三原市公衆衛生推進協議会は、三原市民の健康増進と快適な生活環境づくりを目的に、町内会、自治会などの住民組織から選出された、公衆衛生推進員を中心に、環境エコ活動や環境啓発ポスター標語コンクール、水辺教室などの活動を通じて、生活空間の美観の確保やゴミ減量に向けたリデュース・リユース・リサイクルの推進などに取り組んでいます。

やっさ祭りにおける「ゴミへらし隊エコレンジャー」の、10年間の取り組みは、その奇抜性や視覚の面白さで、子どもたちをはじめ、マスコミや多くの市民の関心を集め、祭り会場のごみの分別回収やリユースを行い、市民意識の向上に貢献してこられました。ポイ捨てが減少し、ゴミの分別が定着した、きれいな会場は、やっさ祭りを大いに盛り上げています。

地球温暖化の傾向は、はっきりと私たちの生活に影響を及ぼしています。家庭でも事業所でも、私たち一人一人が「ゴミへらし隊エコレンジャー」の一員のつもりで、環境エコ活動を、日々の生活に生かしていきたいものです。やっさ祭りから始まった「ゴミへらし隊エコレンジャー」のますますのご活躍を期待いたします。

三原市公衆衛生推進協議会としても、地球温暖化防止へ、その役割を果たせるよう取り組んでまいります。

活動10年目に寄せて

一般財団法人広島県環境保健協会地域活動支援センター長
地球温暖化防止活動推進センター長 上田 康二

ゴミへらし隊エコレンジャー委員会のみなさま、やっさ祭りのゴミを無くそうと始めた取り組みが10年を迎えたこと、本当におめでとうございます。三原市民の意識が大きく変わり、ゴミ分別や環境に配慮して行動をする市民が確実に増えましたね。

停滞しがちな市民活動を、みなさまが10年目も続け、しかも着実な成果を出されているのは、本当に素晴らしいことです。エコレンジャー委員会の仕事すごいのは、祭りでの汗かきに加え、準備やまとめを怠らず、取り組み成果を公表していらっしゃるからです。

私ども環保協(かんほきょう)は、協力団体の三原市公衆衛生推進協議会、企画運営団体メンバーのかんきょう会議浮城など、公衆衛生や地球温暖化対策に取り組む市民団体を支援しており、県内各地で展開されている「祭りのごみダイエット作戦」をはじめ、環境を維持保全する活動の模範的な取り組みとして、みなさまにはこれからも頑張ってくださいと心から願っています。



活動10周年お目出度ございます

環境カウンセラー 藤野 完二

「ゴミへらし隊エコレンジャー」の活動が始まって10年ですか！凄いです。敬意を表します。

皆さんが活動を開始された時期と前後して広島でも同じ様な活動が始まっていました。「一般廃棄物を根絶するには一般市民の日常生活がゴミと密接に繋がっていることを市民や児童に自覚してもらう事が必要だ」と考えて、主役をゴミの化身である「ゴミラ」とし、学校を主な活動の場としていました。「ゴミラ」の活動は学校からの出演要望が減少しやがて無くなり3年程前に衣装を処分したことで活動を終了しました。

一方、皆さんが取組んで居られる「ゴミへらし隊エコレンジャー」の活動は10年を経て今後も続こうとしています。広島での活動が尻つぼみで終わったのに対し、皆さんの活動が発展を遂げて来た。その違いが生じた要因は何処にあるのでしょうか。広島の活動が広島市環境サポーターネットワークに所属する一部のメンバーから構成されていた事に対し、皆さんの活動に参加されている方々は立場も性別も年齢も多様で市民全般に行き渡っていて、人数も揃っています。この違いが大きな要素だろうと思います。

エコ活動は一人のヒーローの活動では広がりません。多くの市民の参加があってこそ地に足の着いた真のエコ活動に繋がります。

「ゴミへらし隊エコレンジャー」は多くの三原市民に支えられた市民参加の活動です。その原則が貫かれる限り今後も更なる発展を続ける事が可能だと信じます。

第38回三原やっさ祭り(2013年) ゴミへらし隊エコレンジャー委員会 事業報告

1. 実施日時・ボランティア参加人数(のべ人数)

今年度は、飲食店が駅前に集まった形になり、当日ボランティアの募集人数を減らすことができたため、必要とする人数に対して、ほぼ充足できる結果となり(表2参照)、人手不足の当面の課題は解決されたと言える。しかしながら、2012年から、ごみの回収ナビゲートと分別リサイクルを担当事業から外したことにより、会場内のゴミの散乱が増え、また評判の低下にもつながっており、今後の事業について、実行委員会全体としての抜本的な見直しが必要と考える。

委員会設立当初より目標としてきた「大人が祭りのゴミの役割と責任を担う」という点については、企業からのボランティア参加も定着しており、大人の割合が増えていることから(グラフ1参照)、評価できる。

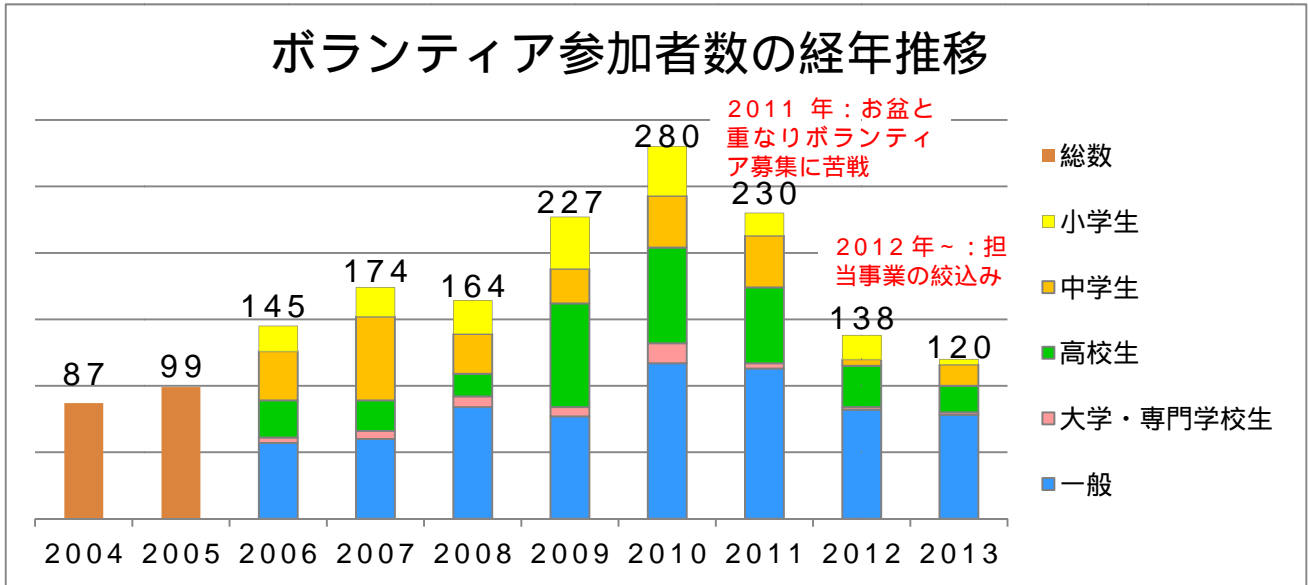
(表1) シフト枠以外の参加(委員会スタッフ、エコレンジャーショー等)も含む

	小学生	中学生	高校生	専門・大学生	一般	合計
9日(金)	2	3	6	0	36	47
10日(土)	2	6	14	2	28	52
11日(日)	0	7	0	0	14	21
合計	4	16	20	2	78	120

(表2) 3日間のシフト表(各サポーターの団体紹介は巻末に掲載)

	11~13時	13~15時	15~17時	17~19時	19~21時	21~23時
9(金)		◇ 三原高校生徒会 ◇ NPO 法人 ちゃんくす	◇ 三原高校生徒会 ◇ NPO 法人 ちゃんくす	◇ 三原市立第三中学校 ◇ 三原高校生徒会 ◇ 三原市役所環境管理課	◇ 三原市役所 ◇ 前田道路	◇ ひのきしんジャー
10(土)	◇ 三原市立第三中学校	◇ 三原市立第三中学校	◇ 三原高校生徒会 ◇ A.M & M.M	◇ 三原高校生徒会	◇ Y.T & F.N ◇ 三原高校生徒会	◇ かんきょう会議浮城
11(日)	◇ M.A & N.H & A.F & C.A	◇ 三原市立第三中学校	◇ A.K & S.M	◇ 三原市立第三中学校	◇ K.K & C.A	
12(月)	花火会場ゴミ拾い: 三原市立第三中学校、NPO 法人ちゃんくす					

(グラフ1) ボランティア参加人数の経年変化(区分別)



【ボランティア募集を知ったきっかけは?】(参加者アンケートより)

- ・学校(28)
- ・天理教三原支部(8)
- ・青年会議所から(1)
- ・友人・知人(7)
- ・市役所(3)
- ・インターネット(2)
- ・ちゃんくす(6)
- ・かんきょう会議浮城(2)

【応募の動機は?】(参加者アンケートより)

- ・友人・知人等に誘われたから
- ・楽しそうだったから
- ・ボランティア精神、地域貢献の気持ちから
- ・やささ祭りで取り組んでいることが大切で、すごいと思うから

2. 事前学習会・クリーン活動

8月4日(日)、まちづくり活動ルームにて、事前学習会を行った。祭りの事前広報として、三原テレビ放送で各委員会PRをしていただけることになり、事前学習会参加者の協力を得て、収録を行った。昨年に続き、リユース事業に活動を絞り込んだため、事前学習会と合わせたクリーン活動は行わなかった。



3. 分別・リサイクル

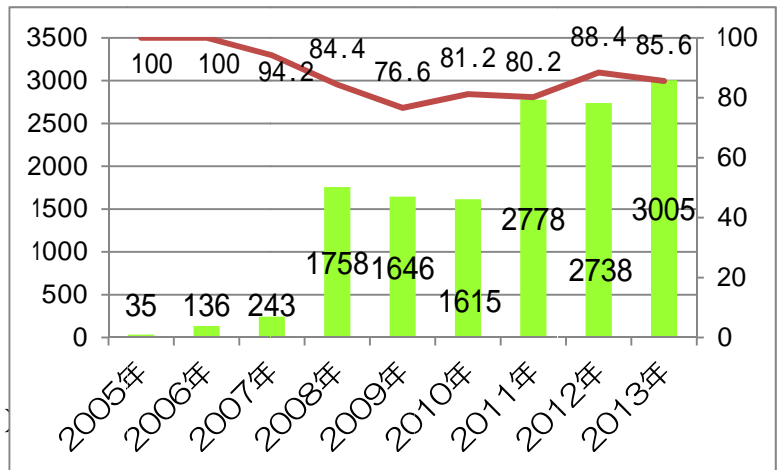
事業の見直しを行った昨年に続き、今年度も、エコレンジャー委員会としては、分別・リサイクルを行っていない。

4. リユースカップ・マイ箸

2013年度回収率	
回収カップ数(2572個)	= 85.6%
使用カップ数(3005個)	

原油換算44.22リットルを節約
CO2削減量196.33キログラム
(環境省「3R行動見える化ツール」により算出)

グラフ(2)



使用数は(出店者へのカップ貸出総数) - (出店者からの未使用カップ返却数)

リユースカップの回収率は、昨年から2.8ポイント下がって、85.6%であった。今年度は、市民広場にメインステージが移動したことに伴い、駅前に飲食店が集中したことは、カップの貸出・回収等で便利な面が大きかったが、カップを持ったまま、メインステージのある市民広場に移動する人が多く、カップ回収率が下がるのが心配された。移動回収チームで、広範囲での回収を行ったが、昨年より回収率が下がる結果となった。カップの使用数は、暑さのためか、昨年の1割増しであった。「おかわり」として、同じカップを複数回利用される方も増えている。

マイ箸販売については、やっさ祭り開催3日間での売上げは1セット。

- 2005年：来場者任意でリユースカップの利用をスタート
- 2008年：出店者に生ビール販売をリユースカップに義務付け
- 2011年：屋台村に加えてグルメ横丁が始まり、飲食出展者数が約2倍となる



固定のカップ回収所での回収



移動回収チームによる返却呼び掛けと回収

5. エコレンジャーショー on ステージ

《ステージ実施日時》

8月 9日(金)16:00～

8月 10日(土)14:10～

出 演：三原市民ミュージカル有志

音声出演：現代劇センター真夏座有志

音源作成：love earth



市民広場に設置されたメインステージで、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の大切さを呼び掛けるエコレンジャー。後方のテントでも、たくさんの方が見てくださっています。

6. 総括

2004年の第29回三原やっさ祭りからスタートしたゴミへらし隊エコレンジャー委員会の活動は、今年度の祭りで、ちょうど10年間活動を続けてきたことになる。のべ1664人のボランティア参加者あってこその実績であり、これまで支えてくださった皆様に、心から感謝申し上げます。

「祭りでのゴミ分別はムリ」と言われる中でのスタートであったが、時代のニーズもあり、新聞・テレビ等のメディアでも多く取り上げられ、県内各地のイベントへ波及、定着するきっかけともなった。【祭りだから、ゴミのことを考えなくてよいわけではない。祭りの時だけ、ゴミのことを考えればよいわけではない】という理念を基に、祭りという非日常の場でもできるゴミ対策、また、市民の日常生活においても環境への意識が高まる対策を考え、実践してきた。10年間の活動を振り返るとともに、課題を整理したい。

6-1. 10年間の歩み

2003年：2002年までのやっさ祭りでは、【燃やすごみ】【燃やさないごみ】の2種類のごみ箱が会場内に設置してあったが、両方のごみをごちゃ混ぜになり、ごみ箱はてんこ盛り、その周りへもごみがたくさん積み重ねられている状態だった。「三原やっさ祭りのごみで困っている」と、実行委員会から相談を受け、「人にやさしい祭り委員会」と「ネットワーク『みどりのはらっぱ』」で協力して、三原やっさ祭りで初めてごみの分別に試験的に取り組んだ。

2004年：「ネットワーク『みどりのはらっぱ』」と「環境ネットワーク三原」で協力して、やっさ祭り実行委員会の中にゴミへらし隊エコレンジャー委員会が誕生、ごみ対策を始めることになった。広島県より「環の応援団支援助成事業」補助金交付



広島テレビでは、事前準備から当日まで取材いただき、特集を組んでいただいた。並んでいるのは、みんなで1枚1枚手作りした「のぼり」



大量のゴミの置き去り



暑い中ではあるが、PR効果を狙い、このスタイルで分別ナビゲートを実施

2005年：観光地美化キャンペーンの一環としてセレモニーが行われた。プラスチックゴミの対策として、分別コーナーで溶剤に入れて溶かす取組みを試験的に行った。マイはしの利用や分別実施などへの意思表示としてエコレンジャー登録者を募り、お名前、顔写真、宣言をホームページに掲載した。第1号認定は五藤市長（当時）。



分別ステーション前で、観光地美化キャンペーンのセレモニー



メンバーリスト

2005年4月1日登録されたメンバー（第1号認定）

登録順	お名前	メッセージ
001	五藤 健二	三原の未来を一緒に歩こう
002	村上 麻子	ゴミ問題の解決には思いやりと協力が必要です。ゴミを分別してリサイクルを心がけよう。三原市環境課 環境課長 村上麻子
003	佐藤 美穂	みんなが、気持ちよく、楽しく過ごせるお祭りを目指します！！
004	佐藤 美穂	お祭りを楽しんで、ゴミを分別してリサイクルを心がけよう。
005	佐藤 美穂	ゴミを分別してリサイクルを心がけよう。
006	佐藤 美穂	ゴミを分別してリサイクルを心がけよう。

2006年：やっさ祭りメインステージでのエコレンジャーショーを行い、以降毎年続けている。三原市が容器包装プラスチックの資源回収を始めたことに合わせて、分別項目に「容器包装プラスチック」を追加。啓発を行うとともに、ボランティアスタッフで洗い、リサイクルを行った。



2007年：リユースカップ、マイはしの利用を増やすため、利用者にエコマネーを提供する取組みを実施（エコレンジャーとじゃんけんして勝った人のみ）。ボランティア活動の写真が環境写真コンテストで入賞した。



2008年：来場者が任意で借りていたリユースカップを、出店者へ義務付けしたことにより、リユースカップの利用が大きく伸びた。メディアでも大きく取り上げられた。三原やっさ祭りオリジナルのリユースカップも作成した。リユースカップ義務化による大きなトラブルはなく、利用者からも「環境に貢献でき嬉しい」との声がかけられた。カップ回収率は84.4%。



2009年：高校生の参加が飛躍的に増えた。分別コーナーをリニューアル。当初つくったボックスは背面パネル（看板）があり、後側からのナビゲートができず、混み合う時間帯の不便さがあったため、1つずつ独立した折りたたみ式のボックスに変更した。2006年に三原市が容器包装プラスチックの資源回収を始めたことに合わせ、やっさ祭りでも分別回収、洗ってリサイクルを行っていたが、運搬面で市の協力が得られなくなったため、容器包装プラスチックを燃やすごみとして回収した。



事前学習会と合わせて行うクリーン活動



2010年：ボランティア参加者数は年々増えるものの（2ページグラフ参照）昼間に集中、夜間の参加者が少ないため、シフト枠を設け、チームで応募していただく「エコサポーター制度」を始めた。事業者をはじめ、それまででない参加も増えたが、人手不足は解消されず、課題として残る。駅前の屋台村に加え、市民広場のグルメ横丁が新たに始まった。容器包装プラスチック対策として、表面フィルムをはがしてリサイクルするP&Pトレーを出店の必須条件とし、手洗いしていたリユースカップを移動洗浄

機を設置して洗うようにした。エコレンジャーショーを三原市民ミュージカル有志のみなさんにより実施、以降継続していただいている。



オリジナル法被で参加して
くださった生協ひろしまの
みなさん



P&P トレーの表面フィルムを
はがすナビゲート



三原市民ミュージカル有志
のみなさんによるエコレン
ジャーショー

2011年：以前より課題であった仕事量と人数のバランスが顕著に悪化、暑さも加わり、体調不良者が出る事態を招くこととなった。製紙会社で紙へのリサイクルを行っていた割り箸を、坂本農場でバイオマス燃料としていただくよう変更した。燃やすゴミとしていた竹箸、串、つまようじも同様に燃料として活用できることになった。



分別ボックスにP&Pトレーの
啓発パネルを設置



子ども達もきちんと分別してく
れる。分別ナビゲートでは、啓
発効果を感じられる。



リユースカップ、P&P トレーで
対応しきれず残る容器包装プラ
スチックは、洗ってリサイクル

2012年：仕事量とボランティア人数のバランス課題を改善するため、事業内容の見直しを行った。

	2011年度まで	2012年度より
ごみ削減事業	リユース食器の貸出・回収・洗浄	リユース食器の貸出・回収
	マイはし販売	マイはし販売
啓発事業	エコレンジャーショー	エコレンジャーショー
	出店者へ容器包装・割り箸の削減依頼	出店者へ容器包装・割り箸の削減依頼
分別・再資源 化事業	出店者へエコトレ使用義務化	
	ごみの分別ナビゲート	
	ごみの計量	
クリーン事業	ごみ拾い	
	テーブル清掃	

6-2. これまでの成果

ごみの散乱が減った

2012年度の事業見直しにより、分別ナビゲート・ごみ拾いは中止

- 以前のやっさ祭りを知っている人からは、「やっさ祭り会場がきれいになった」と、とても多くの声をいただいています。
- ごみステーションにはナビゲートスタッフが付き、いっぱいになったら集積場へ運んでいます。
- 残念ながら、ごみを放置する、ポイ捨てる人もおられるため、会場内のごみ拾いもしています。

分別意識の向上

2012年度の事業見直しにより、分別ナビゲート・ごみ拾いは中止

- 活動開始当初は、いろんなモノが混ざって入ったビニール袋をそのままポイッと捨てていく人が多かったのですが、現在はほとんどそういう人がいなくなりました。それぞれご自分で分別をしてボックスに入れていただいています。
- 親御さんが子どもさんに、またおじいちゃん・おばあちゃんがお孫さんに、「ちゃんと分けるんよ～」と分別を促しておられる場面もよくお見かけします。

環境意識の向上

- 10年間でのボランティア参加者数は、のべ1664人、単年でいちばん多かったのは2010年の280人です。
- ボランティア参加の皆さんにアンケートを書いています。ボランティアとして参加することで、繰り返し使う「リユース」や「マイはし」などを知り、「とても良い！広げるべき！」と感想をいただきます。また、「これまでポイ捨てることがあったが、これからはしない」、「ポイ捨てる人に注意する」などの感想も多くあります。

ごみの発生抑制

- リユースカップの利用は、開始当初の2004年には80個でしたが、2013年度は3005個へと伸び、その分、使い捨てカップを減らすことができます。
- 2010年、2011年は、出店の条件としてエコトレイを義務付けし、一般トレイより単価が高いため、串1本等の場合はトレイをつけないなど出店者さんなりに工夫され、結果としてごみの発生抑制につながっています。

リサイクルの推進

- 会場内3ヶ所のごみステーション回収分とごみ拾いで回収分のごみのリサイクル率は、50%以上を達成してきました。三原市のリサイクル率が12.5%ですから、かなりがんばっている数値です。

CO2削減

- リユースとリサイクルにより4,035kgのCO2削減となっています。
(リユースは2011～2013年、リサイクルは2009～2011年の集計)

青少年育成

エコレンジャーの活動を通して、下記の表彰をいただいています。

「三原市青少年育成の集い」

- H17年度 青少年模範活動団体の部

やっさ祭りゴミへらし隊エコレンジャー

- ・ H19 年度 善行青少年の部
川西絵美理、末本尚吾、山本一仁
 - ・ H21 年度 善行青少年の部
中村直尚、熊本征利
 - ・ H23 年度 善行青少年の部
森原南帆
 - ・ H24 年度 善行青少年の部
小山田健志、中岡詠人
- 「(社)青少年育成広島県民会議 会長表彰」
- ・ H20 年度 模範青少年 末本尚吾

6-3 . メディアその他での紹介

2004 年

- ・ 中国新聞朝刊にボランティア募集のお知らせを掲載 (6/24)
- ・ 中国新聞朝刊に写真つきで掲載 (8/3)(記事)
- ・ エフエムおのみち「ママ・ブランチ」で活動紹介 (7/19、7/26、8/2)
- ・ 広島テレビで事前 PR を兼ねた特集として放送 (8/4)
- ・ 広島テレビで事後の活動紹介として特集を放送 (8/11)
- ・ RCC ラジオ「本名正憲の今日もゴゴイチ」の「藤野完二のエコライフコーナー」で紹介
- ・ さんあいジャーナル、やっさもっさに掲載

記事 : 2004 年 8 月 3 日朝刊
(中国新聞社提供)



2005 年

- ・ 広島県環境保全委員東部地区研修会で事例発表 (3 月)
- ・ 中国新聞朝刊に「三原やっさ手本に」見出し記事掲載 (4/15) (記事)
- ・ 朝日新聞朝刊に「分別通じ環境考える 出さない工夫も必要」と紹介 (5/8)
- ・ 中国新聞朝刊にボランティア募集記事掲載 (6/23)
- ・ さんあいジャーナルにボランティア募集記事掲載 (6/24)
- ・ ほのぼのうきしろだよりに活動紹介、ボランティア募集掲載 (7/24) (記事)
- ・ RCC ラジオで活動紹介、ボランティア募集告知 (7/25、7/29)
- ・ 読売新聞朝刊にボランティア募集記事掲載
- ・ 広報みはら 8 月号表紙 (三原高校生徒さんによるエコレンジャー) (記事)
- ・ 三原テレビで活動紹介、ボランティア募集、やっさもっさに掲載

記事 : 2005 年 4 月 15 日朝刊
(中国新聞社提供)



記事



記事



2006年

- ・朝日新聞朝刊に掲載(7/26、8/11)
- ・読売新聞朝刊に掲載(8/2)
- ・中国新聞朝刊に掲載(8/26)(記事)
- ・三原テレビでボランティア募集、活動紹介
- ・広報みはらでボランティア募集、活動紹介

記事 : 2006年8月26日朝刊(中国新聞社提供)



2007年

- ・ほのぼのうきしろだよりに活動紹介、ボランティア募集掲載(7/29)
- ・三原テレビでボランティア募集、活動紹介
- ・広報みはらでボランティア募集、活動紹介
- ・さんあいジャーナルでボランティア募集、活動紹介
- ・尾道環境まつりに出演
- ・龍姫湖まつりに出演

記事 : 2008年6月25日朝刊(中国新聞社提供)



2008年

- ・中国新聞朝刊にリユースカップ義務化の記事掲載(6/25)(記事)
- ・中国新聞朝刊(8/3)(記事)
- ・中国新聞朝刊(8/9)(記事)
- ・ひろしまフードフェスティバルに出演
- ・広報みはらでボランティア募集、活動紹介

記事 : 2008年8月3日朝刊(中国新聞社提供)

記事 : 2008年8月9日朝刊(中国新聞社提供)



2009年

- 中国新聞朝刊にやっさ祭り特集④として掲載(8/4)
(記事)
- 三原テレビ、広報みはらでボランティア募集、活動紹介
- 三原市中央公民館で活動紹介のパネル展示(7/6~7/28)

記事 : 2009年8月4日朝刊
(中国新聞社提供)



6-4. 課題

- ◇ ごみの発生抑制とリサイクルについて、さらなる意識啓発が必要である
- ◇ 三原やっさ祭りですべて培ってきた、ごみ削減のノウハウ、機材、資材を他イベントへ提供し、三原市内のイベント全体へ広げる必要がある
- ◇ より多くの個人・団体の方に、やっさ祭りでの取組みに関わっていただき、上記の課題と一緒に取り組んでいく必要がある

【2013 年度エコサポーター】(申込順)

エコサポーター団体名	団体紹介文
ひのきしんジャー	健康への感謝の思いを人のために役立つ行いに変えることを「ひのきしん」と言います。エコ活動を通して、少しでも、地域の方々が喜んで下されば2倍3倍の喜びです。(母体は天理教三原支部)
三原市役所	日ごろより、三原市の環境行政にご協力をいただき、ありがとうございます。今年も有志一同で参加します。ごみゼロを目指してがんばります。
前田道路	国土交通省発注の「三原歩道美装化工事」を行っています。一昨年も参加しましたが、今回もご縁ということで参加させていただきます。
三原市立第三中学校	第三中学校では、やっさ祭りボランティアであるゴミへらし隊エコレンジャーを先輩たちがやっていたので、続けていきたいと思ひます。
三原高校 生徒会	毎年、生徒会は参加しています。さまざまなボランティア活動を行なっています。郷土三原の祭に貢献したいと思ひます。よろしくお願ひします。
NPO 法人ちゃんくす	ホームページ http://www.geocities.jp/npochunksmihara/
かんきょう会議浮城	自然豊かで美しく、 安心でおいしい地域の食材にあふれ、 『もったいない』と物を大切に、 子どもたちはのびのび・すくすく育ち、 人も自然も、生き活きと！ こんな三原のまちを目指して自分の「できるとき」に「できること」を一緒に、楽しんで はじめませんか！ 会員募集中です ホームページ（「かんきょう会議 浮城」で検索）： http://genki365.net/gnkm05/mypage/index.php?gid=G0000034

【2010 年度エコサポーター】(50 音順)

あなたの町を応援し隊（岐美研究室）/ イオンチアーズクラブ / かんきょう会議浮城 /
如水館高等学校 / 如水館高校インターアクト部 / 如水館高等学校（2年2組） / 生協ひろしま三原支所
/ 三原高等学校生徒会 / 三原市民ミュージカル / 三原市役所

【2011 年度エコサポーター】(50 音順)

イオン三原店チアーズクラブ / 学生有志 / 生協ひろしま三原支所 / 三原市立第三中学校 /
三原市立第二中学校 / Chika's English House / ひのきしんジャー / 前田道路（株） /
三原高等学校生徒会 / 三原高等学校有志 / 三原市民ミュージカル / 三原市役所 / Y&S

【2012 年度エコサポーター】(50 音順)

NPO 法人ちゃんくす / (株) ガイアート T・K / 生協ひろしま / ひのきしんジャー / 三島産業（株）
/ 三原高校 / 三原市役所 /

2004 年～2013 年ボランティアスタッフ総勢のべ1664人

ゴミへらし隊エコレンジャー委員長

安藤志保 (2004、2007～2012)

村上純子 (2005)

末本尚吾 (2006)

中谷友彦 (2013)

第38回三原やっさ祭り実行委員会・ゴミへらし隊エコレンジャー委員会

<http://ecoranger.jimdo.com/>

.....【ご協力団体】(50音順).....

尾道港祭協会

現代劇センター真夏座

三原市

三原市公衆衛生推進協議会

三原市民ミュージカル

.....【企画運営団体】(50音順).....

環境ネットワーク三原

<http://sakura.canvas.ne.jp/spr/muginoko/>

ネットワーク『みどりのはらっぱ』

<http://midori-harappa.jimdo.com/>

三原やっさ祭り実行委員会事務局

(三原商工会議所内)

TEL : 0848-62-6155